

# 桑野塾

桑野塾 検索

<http://deracine.fool.jp/kuwanojuku/>

大学などの研究者に限らず、興味を持って研究していることを自由に発表しあう「広場」です。どなたでもご参加いただけます。それぞれの興味が少しずつ重なり合うことで、新たな知見を見いだそうという場です。

## 第46回

2017年  
10月28日(土)  
15:00 ~ 18:00

早稲田大学 早稲田キャンパス16号館 820号室

★ どなたでもご参加いただけます。会場に直接お越しください。 **参加無料**

☆ 終了後、近くの居酒屋で懇親会を開催します。(飲食費は別途)  
※予約の都合上、懇親会参加をご希望の方はなるべく事前にご連絡いただくと助かります。  
※報告者・タイトルは変更の可能性もあります。ご了承ください。



## ロシア革命100年と対峙して

1917年のロシア革命はソヴィエト連邦国家を誕生させ、その後もはかり知れない人々の生命を奪い運命を狂わせました。世界を二分し遠大な理想を掲げながらスターリン体制は変わることなく鉄のカーテンとグラグ(強制労働収容所)制度を続け、ソ連邦はあえなく70年にして崩壊しました。

こうしたソ連の100年を、ソ連崩壊後日本に留学し現在東京外国語大学などでロシア語非常勤講師をしているエカテリーナ・コムコーヴァと、稀有なソ連体験をもつ勝野金政の遺族・稲田明子がそれぞれの関わりのなかからふりかえります。



グラグ  
歴史博物館  
(モスクワ)

### スターリンは優秀な指導者か？ 非道な独裁者か？

モスクワのロシア国立グラグ歴史博物館とのやりとり及びニュースから見えてくる過去との向き合い方

報告者：エカテリーナ・コムコーヴァ  
関東学院大学・東京外国語大学ロシア語非常勤講師

2001年に設立されたグラグ歴史博物館の活動を紹介しながら、自分の個人史を通じて現れたスターリンとはなんだったのかをふりかえり、最近のニュースから見えてきたスターリンとロシアの関係もみていきます。

●エカテリーナ・コムコーヴァ(Екатерина Комкова)  
ロシア国立イルクーツク外国語教育大学日本語学科卒。1995年から1年間富山大学に留学中に藤井一行教授のもとで勝野金政のロシア公文書館文書の翻訳にかかわる。その後NHKロシア語会話に出演するほか、勝野金政遺族とソルジェニツィン記念亡命ロシア人センター、ロシア国立グラグ歴史博物館とのコンタクトをコーディネート。個人的に勝野金政著『赤露脱出記』ロシア語翻訳に取り組み。

### 身近なロシア・ソ連の亡命者たちの運命

報告者：稲田 明子  
「勝野金政WEB記念館」主宰 鎌倉パヴロバ会

靖国の英霊となった亡命ロシア人で日本のバレエの母と称されるエリアナ・パヴロバ。1919年母妹と日本に亡命し、関東大震災被災を乗り越え、日本で最初のバレエスクールを鎌倉に設立し、バレエ界を担う人材を数多く育てました。

一方、留学先のパリからソ連に亡命し、その後日本に生還・亡命した父・勝野金政。ソ連崩壊後加藤哲郎教授の検証により1989年名誉回復が判明し、新たな展開をもたらしました。2014年モスクワソルジェニツィン記念亡命ロシア人センターで開催した「没後30年記念展」を機に、このたびグラグ歴史博物館へ資料・遺品寄贈を終えロシアとの関係修復がすすみ、「ロシア革命100年」を迎えました。

この100年に貴重な足跡を残したわたくしの身近な日露の若き亡命者たちの数奇な運命を手元の資料から考察します。

●稲田 明子(いなだ あきこ)  
昭和16年3月勝野金政・光子長女として東京に生まれる。疎開により父の郷里木曾で育つ。早稲田大学教育学部卒業。結婚し鎌倉に住む。ソ連崩壊後加藤哲郎、藤井一行教授への父の資料提供に携わる。CD-ROM『勝野金政著作集』藤井一行共編。

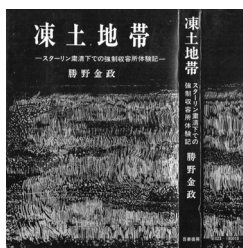


昭和初期 創立直後の  
パヴロバ・バレエ  
スクール(鎌倉)

エリアナ・パヴロバ



帰国直後の勝野金政



勝野金政著  
『凍土地帯—スターリン  
粛清下での強制収容所体験記』  
表紙カバー  
(吾妻書房、1977年刊)